

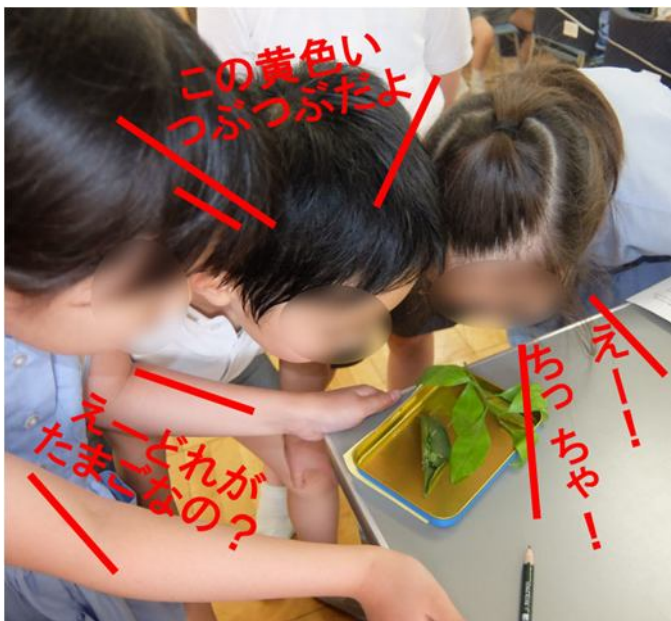
「幼虫、ちっちゃ! (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

その後もアゲハの幼虫は、続々と「田中デスク」に届けられた。中には、アゲハの卵を持って来る子どももいる。日本産のアゲハ(アゲハチョウ科の蝶)の卵は、ミカン科の植物の葉(幼虫の食草)に産み付けられる。よく「ミカンの葉やサンショウの葉」と言われるが、実はサンショウ *Zanthoxylum piperitu* もミカン科の植物であることは、あまり知られていない。



「ミカン科の葉についてアゲハの卵」ナツミカンやレモンの葉など、数種類が混ざっている。



3年生の教室にアゲハの卵を置いておくと面白い。子どもたちはなかなか卵を発見できないのだ。あまり

にも小さいのがその理由である。アゲハの卵は、直径1mm程度でほぼ球形をしている。しかし、実物を見たことがない子どもたちは、アゲハ(成虫)の大きさから、小さなビー玉ぐらいの大きさを想像するようだ。ここでも「ちっちゃ!」が連発していた。



卵は黄色いものが多いが、中には上写真(顕微鏡、反射光、×40)のように、黒っぽいものも混ざっている。これは、すでに中の幼虫が、孵化寸前まで育っている時の色である。顕微鏡で見ると、メダカの卵と同じように、時々幼虫が動くことがある。



運がいいと、子どもたちが見ている目の前で、孵化の一瞬を観察できることもある。今日の中休みが、まさしくその一瞬だった。女の子が「あっ! 卵から幼虫が出てきた!」と叫んだのだ。そのあとが大変だった。